

【2月16日（土）北海道新聞】

日赤「いのちと献血俳句」コン

羽幌高と留萌港南中団体賞

【羽幌、留萌】日本赤十字社主催の第13回赤十字・いのちと献血俳句コンテストで、羽幌高（宮下裕加校長）と留萌港南中（小沢洋一校長）が団体賞に選ばれた。団体賞は、各都道府県で小、中、高校各1校に贈られるもので、それぞれ初めての受賞となった。

コンテストは命の尊さや助け合いなどがテーマ。今回は全国4万2514人（うち道内1445人）から計13万6524句（同4965句）の応募があった。羽幌高は今回、初めて応募した。全生徒157人が計325句を出品したことに加え、保健体育の授業で献血の意義を熱心に学んだことが評価された。

北海道赤十字血液センター旭川事業所の鈴木一彦所長が5日、同校を訪れた。代表して賞状を受け取った生徒会長の斉藤真彩さん（2年）は「昨年、鉄欠乏性貧血の治療で輸血を受けた経験から、献血に対する感謝の気持ちが大きくなりました」とあいさつ。「全国には困っている人たちがたくさんいると思うので、献血を広めたい」と話した。留萌港南中は1、2年生が夏休みの課題で俳句の表現に取り組み、ほぼ全員に当たる85人が作った計845句を応募。同校で12日、表彰式が開かれ、賞状を受け取った生徒会長の山岸時大さん（14）は「大きい賞をもらえてうれしい」と話した。（長谷川賢、工藤俊悟）



鈴木所長（左）から賞状を受け取る斉藤さん＝羽幌高

ご多用のところ、表彰のために本校を訪問してくださった、北海道赤十字献血センター旭川事業所事業所長の鈴木一彦様、ありがとうございました。